

# 被災地の5年後を訪ねて

今研修の目的は、東日本大震災発生後に議員県外研修として訪れ、また、2年前にも「被災地の3年後を訪ねて」として議員県外研修を行った被災地の現状を視察・研修して震災・津波被害の甚大さを、また、復興の現状を体感することにより、当黒潮町の今後の震災対策等に活かすことです。

## 総務 教育

常任委員会

### 被災後の初動体制と 高台移転状況は



委員長 山崎 正男

#### ● 8月22日

気仙沼市を訪問、東日本大震災からの復旧・復興に向けた取り組みについて、特に被災後の初動体制や集団高台移転等の説明を受ける。

初動体験について総務課係長から震災ビデオで生々しい映像を見ながら説明を受ける。まず災害時は、想定外のひっきりなしの対応や次々飛び込む情報把握と処理について、大変困難な状況が伺えた。少し列記をすると  
○電気ガス水道が破損、道路も寸断され、動きが取れず物

資が運べなかった。

○食料不足となるが食糧確保で一日一万食は厳しかった。

○施設のトイレが汚れ、病气やインフルエンザが心配された。

○遺体安置や棺の不足の対応。

○暖房は電気が使えず、灯油ストーブが活躍した。

○職員の状況把握でも3日から4日かかった。

○家族思いの子どもの被害が起きたことで、情けよりも教育現場の指示に任ずることが大事。  
職員はとにかく寝ないで対応した。

#### 高台移転の概要も 説明を受けました

国が補助金を出すことになり事業が大幅に進んだ。復興事業で人材が不足しており、各自自治体に派遣を要望したいとのことでした。

市役所の入り口に「出来ませんとは言いません」という訓示があり、まさに職員の復興への意気込みであると感じました。

#### ● 8月23日

陸前高田市と気仙沼市の高台集団移転で現地説明を受けた。

災集団移転促進事業は宅地30区画、公営28戸で、平成27年3月に引き渡しを開始された。



高台移転の促進状況(気仙沼市)

● 女川町で復興への取り組みについて説明を受ける

講師は、議員をしながら復興に取り組み、復興は女川



気仙沼市議会議長のあいさつ



復興まちづくり情報交流館にて